

平成 29 年度 第 5 回市民協働推進委員会 議事録

- 1 日 時 平成 30 年 2 月 1 日 (木) 午後 6 時 00 分から午後 7 時 15 分
- 2 場 所 豊川市役所 本 34 会議室
- 3 出席者 副会長 神谷典江・・・(特非) 穂の国まちづくりネットワーク
委 員 原田鈴香・・・豊川市青年団協議会
委 員 仲野雅俊・・・元豊川市連区長会副会長
委 員 小栗慎平・・・豊川高校インターアクトクラブ顧問
委 員 荒木夏希・・・一般公募市民
委 員 竹本甲歩・・・一般公募市民
委 員 稲垣誠・・・ひまわり農業協同組合
委 員 小林孝行・・・豊川市社会福祉協議会地域福祉課長
委 員 鈴木一寛・・・豊川市市民部長
- 4 事務局 市民部次長、市民協働国際課長、課長補佐、市民協働係長 係員
- 5 傍聴者 0 名
- 6 議事概要

(1) とよかわ市民協働推進計画について

【事務局】

とよかわ市民協働推進計画(案)について 12 月に議会説明、12 月 20 日から 1 月 18 日までパブリックコメントを実施し、意見の提出がなかったため、本日配ったもので計画を策定とする。概要版は、印刷を業者へ委託し 2,000 部作成する。2 月末に納品の予定なので、出来上がったものは委員へ送付するので、PR していただける機会があれば必要部数をお渡しする。

【会長】

計画の普及に関して委員のみなさまがご協力いただける機会があれば、是非事務局へ声かけをしていただきたい。

(2) 平成 30 年度豊川市市民協働推進事業補助金について

【事務局】

平成 30 年度の豊川市市民協働推進事業補助金の企画募集を開始した。この補助金は市内で実施される「協働」で行うまちづくり事業が対象で、対象団体につき 1 年度 1 回まで申請することができる。連区や町内会等の地縁組織、センタープリオに登録されている市民活動団体、学校等、企業、行政が複数で構成する団体が補助対象となる。3 月 2 日までの募集期間となっているため、3 月中旬には委員のみなさまに各団体の企画書等を郵送させていただき予定でいる。3 月 24 日に公開審査を行うので、企画書等に目を通していただき参加をお願いしたい。

審査方法等について資料 2～5 を用いて説明。

【委員】

補助金の予算についての説明がわかりづらかったのもう一度説明をして欲しい。

【事務局】

各団体の審査を行い、順位を決めるところまではご理解いただいたという事で話を
する。本年度の補助金の予算が 100 万円であるので、資料5でのせてある 6 団体の
申請のケースであると、すべての団体が審査では採択となっているが、団体の補助申
請総額が 110 万円のため、予算を超えてしまう。そのため、順位が最下位の団体に対
して団体が望めば一部補助という形で補助するという事を説明している。

【委員】

補助率が 1 年毎に下がるが、毎年 20 万の補助を受けることは可能なのか。

【事務局】

対象経費に対しての補助率であるので、事業が年々拡大し、対象経費が上がれば毎
年 20 万円の補助というケースもある。

【委員】

最大で 20 万円ということか。

【事務局】

その通り。補助は対象経費に対して補助率をかけるものなので、対象経費が増えれ
ば、補助率が下がっても増えることもある。

3 その他

【会長】

今回の委員会で計画策定における審議の場が終わるので、委員会に参加して計画策
定に関わった中で、委員のみなさんが協働の意味や課題を改めてどのように捉えられ
たかお聞きしたいと思う。

【委員】

今回の計画では目標値を定めたことが大きなところだと考えている。この計画に沿
って市民のみなさんに協働の必要性を伝えていき、協働が広がっていけば、豊川市が
もっといいまちになると感じた。

【委員】

社会福祉協議会では、協働を意識しない中で、団体と議論しながら事業をしている

ので、協働の推進という計画がまとめられたことで、より意識して事業をすすめていく必要があるのかなと感じた。

【委員】

委員会に関わることによって協働を学ぶことができた。市の事業に対しても興味を持つことができるようになり、家族で市の広報紙の情報で会話をすることができた。まずは興味を持つことが大事なので、自分が発信できるようにしたいと思っている。

【委員】

やりたい気持ちがあれば、まちづくりに参加するのは身近なことだと感じた。これから学生や地域活動に無関心な人に地域活動に関わってもらえるように、協働がもっと浸透していくといいなと思っている。

【委員】

自分自身が経験や知識のない中で委員会に参加して、さまざまな分野で活動されている委員の方と協働とは何かを議論させてもらい、深みのある計画が完成したことに感慨を受けている。経験がない自分でもこのような委員会に参加して内容の深い議論ができたと思うので、これから多くの学生、若い世代に行政に関わってもらいたいと思っている。

【委員】

以前に町内会長をやっており、市民協働推進補助金の案内をいただいたが、当時は補助金の趣旨がきちんと理解できておらず活用できなかった。当時に今の知識があれば補助金を申請することができたと思うので、これを町内に持ち帰って広めていきたいと思っている。

【委員】

若者が参加しやすいまちづくりをお願いしたいと思っている。若者はボランティアやまちづくりに関心がないのではなく、一歩踏み出す勇気、きっかけがないため参加できずにいる現状である。市からのアクションで若者がまちづくりに参加できると思っている。自分自身がいろんな活動に参加する中で、多くの人との関わりを持てる機会が増え、また、今回委員会に参加したことで協働の必要性を改めて感じた。

【委員】

いくつかの市町村に住んできて、その地域ごとに抱えている課題が違うことを感じた。住民が自分の事として捉えて問題解決に取り組んでいくために、協働は必要だと思った。豊川市で協働が広がっていくことを願っている。

【副会長】

平成13年に豊川市に生活活性課という部署ができて以来、NPOという立場で市と関わらせていただいている。社会情勢の変化に伴って協働が重要視されてきたが、今回の計画策定でパブリックコメントを実施したと事務局から話があり、中央図書館に設置されている資料を何回か目にしたが、資料の持帰り状況がおもわしくない事が目にとまった。市民にはまだまだ協働は浸透していないという事を感じたところ。

今年度、計画の更新をしたことや総合計画でも協働が柱となっていることから、豊川市として協働を進めていきたい、協働は今の時代のニーズにあっていものだと考えられている。委員のみなさんは計画の策定に関わって協働について認識が深まったと思うので、是非、周りに協働を浸透させる力添えをいただきたいと思う。

さきほど、概要版をもって市民協働を周知していきたいという話が事務局からあったが、今度企業へボランティア講座に行くことになっているので、資料として持っていこうと思っている。継続してやっていくことで少しずつでも協働という言葉が浸透させていきたいと考えている。

【会長】

推進計画のたたき台をひっくり返して再度検討の機会を持ち、委員のみなさんには苦勞をおかけしたと思う。多くの意見を汲み取って事務局がこのように作り上げてきたので、感慨深い思いでいる。

計画の中でも、自立高齢者という書き方がされているが、これからは定年退職後の生活のあり方が問題になってくると思う。協働という言葉の先には繋がりを見つけるというのが究極のところだと思っており、現役世代は学校や職場、また家族との繋がりの中で生活をしており、人との繋がりを意識せずに帰属する場所を持つことができる。定年後の生活は、家族はいるにしてもその他で帰属できる場所がない時に、自ら行動する自律高齢者に向かっていけるのかというのが課題となると考えている。

今回計画を策定して、豊川市で総合的に協働を進めていくことになると思うが、定年前の企業人にも目を向けて、定年退職後に生きがいのある生活を送る市民が増えることを願うところ。ここ数年で高齢化が急速に進んでいくので、この計画の意義が問われると思っている。働き方改革が提唱されている中で、仕事だけに軸足を置いた人生ではなく、協働を見据えた人生を考えるきっかけとなって欲しいと思っている。

【委員】

副会長が平成13年から協働を進めてきた話を聞いて、協働を浸透させるのはすごく難しいことだと感じたところ。委員会に参加して協働を考える機会をもらったので、微々たる力であるが、少しでも広めていきたいと思った。